

## △「ベトナムよりドクさんを迎えて」

天使の園保育園

1960～1975年、今から30年前です。ベトナムで戦争がありました。日本は派兵しませんでした。南ベトナムを支援したアメリカのために沖縄、厚木の基地が米軍の強い味方として存在しました。その戦争で、米軍が空中散布した枯葉剤の影響で、障害をもった子どもが多く生まれました。当時、二重胎児の「ベトちゃん ドクちゃん」の分離手術が成功したというニュースが報道され、大きな話題となりました。その時の小さな男の子が、今はすっかり青年となり、すばらしいバランスをもって一本の脚で来園されました。園児たちも一瞬、みせられた様子でした。

歓迎会では、去年とりくんだ、アイヌの踊りをしました。ベトナムの方達も、ドクさんを囲みひとつになって踊りました。どじょうすくいのは、ひょうきんな顔の子ども達と握手を交わされ、朝鮮韓国語の歌のプレゼントが終わると、ドクさんから「アンニョン ハシムニカ」とあいさつもいただきました。

そして、「今、ぼくは元気ももらいました。」と楽しそうに話されていた顔が印象的でした。子ども達の質問コーナーでは『ドクさんは、コンピューターを教える仕事をしていて、イチゴが好きで、24才で、歌が上手。』ということがわかりました。交流の後で、2才児の男の子が「バキューンは、あかんあ。」と言ってテッポウのおモチャでは遊ばないと話をしていました。2才児もよく解っているのです。大人はどうですか？

本当に短い交流でしたが、天使の園保育園のとりくみも少しですが伝えることができました。この保育園には、8割近くの子も達が朝鮮韓国にルーツをもっています。自分たちの文化だけでなく、他のアジアの国の文化も知り、大事にしていこうと「世界の子もたち」という企画を25年間続けています。アジアからの就学生・留学生と一緒に、その国の歌・遊び、踊りを通して交流するというとりくみです。そして、その流れからNPO法人アジアハウスという生活支援のひとつである。就・留学生寮が誕生しました。

今、アジアでは、特に中国、韓国で、反日の動きが強まっています。この時期だからこそ、市民レベルの交流が大事になってくると思います。こうしたとりくみの延長戦上で、ドクさんと出逢いました。そしてこの先では、平和と出逢いたいと願っています。

歓迎の手作りレイを作ってお迎えしました。  
ちょっと難しい説明にも耳を傾けていました。



ドク兄さんに質問！

みんなよ～～～く聞き入っているでしょ。

真剣です。

歓迎の会でのアイヌの踊りです。  
この後ドクさんも入って  
ひとつになって踊りました。



ドジョウすくいユーモラスな  
動きや顔にドクさんも笑顔です。



みんなでチーズ！？記念写真です  
ドクさんのとなりは取り合いです。